

知的障害者を対象とした「わかりやすい版」における規範性

－厚生労働分野に着目して－

○ 京都教育大学総合教育臨床センター 氏名 門下祐子 (009958)

羽山 慎亮 (一般社団法人スローコミュニケーション・009444)

キーワード：知的障害・わかりやすい版・ウェルビーイング

1. 研究目的

2022年9月、障害者権利条約における日本の第1回政府報告に関する総括所見が示され、第25条健康にて「(b) 保健サービスに関して、点字、手話及び「イーजीリード」等、全ての障害者に利用しやすい様式で情報が提供されることを保障すること」と勧告を受けた。国内の動向を鑑みると、2000年代後半頃から、障害者関連の法律・施策等を知的障害者が理解できるように「わかりやすい版」を発行する事例があらわれはじめた（羽山 2017）。2016年4月施行の障害者差別解消法も発行の後押しとなっていることが予想される。また近年、医療の発展にもなつて知的障害者の高齢化が進むと同時に、がん等の疾患にかかる人も増加傾向にあると思われ（打浪・羽山 2022）、疾患についての理解の促進も喫緊の課題となっている。そのため、厚生労働分野をはじめとする「わかりやすい版」の発行が以前よりも進んでいることが見込まれる。

門下・羽山（2023）は日韓の「性」に関するわかりやすい書籍・冊子の紙媒体に着目し、知的障害者に対しては行動について「○×」による説明がなされやすく、それを用いた性教育を行う場合、各発行物の特徴や背景にある規範について注視する必要性を述べた。厚生労働分野の「わかりやすい版」においても、このような説明のあり方が予想されるが、現状、それら発行物の詳細については明らかになっていない。そこで本研究では、厚生労働分野における「わかりやすい版」に着目し、1) テーマと製作数、2) 「○×」で説明しているページ数及びその内容、以上の2点を明らかにする。それにより「わかりやすい版」の現状と課題を把握するとともに、今後のよりよい作成・普及の一助となることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

厚生労働分野の成果物を把握するため、以下の方法により「わかりやすい版」を収集した。本研究における「わかりやすい版」は、「文章表現を容易にしたうえで総ふりがなで示し、イラスト等で視覚的にも提示して知的障害者が理解できるように配慮された発行物」とする。

1) テーマと製作数：ア) ①科学研究費助成データベースのトップページ、②厚生労働科学研究成果データベースの閲覧システム・概要版の内容より、検索ワードを「知的障害」＋「わかりやすい版」「LL版」「LLブック」「LLマンガ」各語とし、成果物としての資料を確認した（検索日：2025年5月14日）。イ) Yahoo!検索にて、「わかりやすい版」「LL版」「LLブック」「LLマンガ」の各語が順番も含め完全に一致し、ドメインが「mhlw.go.jp」の日本語ページを検索し、資料そのものがPDFで掲載されているものを確認した（検索日：2025年5月16日）。

2) 「○×」で説明しているページ数及びその内容：対象のPDFを筆者2人がそれぞれ目視でチェックした。その上で互いの結果をつき合わせ、誤りがないことを確認した。

3. 倫理的配慮

本研究は「日本社会福祉学会研究倫理規程」および「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守して実施した。なお、本研究は資料を対象とした調査研究であり、人を対象とする研究には該当せず、倫理審査を必要とする研究ではない。また、演題発表に関連し、発表者全員について開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

1) 検索の結果は表1のとおりであった。そのうち、成果物として「わかりやすい版」が公開されていたものは、表2の11件が該当した。11件のうち、結婚・出産・子育てについて（4件）、がんなどの疾患について（4件）、障害者総合支援法について（1件）、障害者虐待防止法について（1件）、ピアサポーターについて（1件）であった。「性」や健康に関するものが多く、いずれも知的障害者のウェルビーイングの実現に向けて作成されていた。

表1 検索結果

	ア) ①	ア) ②	イ)
わかりやすい版	6	11	44
LL版	1	0	2
LLブック	2	0	29
LLマンガ	3	0	0

表2 調査対象となった「わかりやすい版」の概要及び「○×」で説明している頁数

研究課題または発行者	成果物（順番にアルファベット記号を付与）	○・×頁数 ／総頁数
大阪手をつなぐ育成会	a「わかりやすい版 知ろう・使おう・楽しもう 障害者総合支援法のサービスを利用したい人へ」 (2016年) b「わかりやすい版 虐待されたら“やめて”と言おう 障害者虐待防止法はあなたを守ります」 (2016年)	0/8 0/4
全国手をつなぐ育成会連合会 本人活動支援委員会	c「子どもが できなくなる手術を、知らないうちに された人は いませんか？」(2019年)	0/4
【厚労科研】障害者ピアサポートの専門性を高める ための研修に関する研究（研究代表者：岩崎 香）	d「わかりやすい版 ピアサポーターになりませ んか？」(2019年)	1/8
【厚労科研】障害のあるがん患者のニーズに基づい た情報普及と医療者向け研修プログラムの開発に関 する研究（研究代表者：八巻 知香子）	e「わかりやすい版 大腸がん」(2021年) f「わかりやすい版 肺がん」(2022年) g「わかりやすい版 糖尿病」(2023年)	1/16 1/16 1/12
【厚労科研】がん罹患前より障害があるがん患者に 対する医療機関における適切な医療・支援の実装に 資する研究（研究代表者：八巻 知香子）	h「わかりやすい版 子宮頸がん」(2024年)	0/16
【科研費】知的障害のある親への乳幼児育児の支援 方法の検討（研究代表者：杉浦 絹子）	i「LL マンガで描いた わかりやすい母乳育児の方 法」(2024年) j「LL マンガで描いた わかりやすい赤ちゃんの泣き とねむり」(2024年)	7/20 2/28
厚生労働省・こども家庭庁	k「障害者が希望する「結婚・出産・子育て」支援 取組事例集 わかりやすい版」(2025年)	0/44

2) 「○×」で説明しているページ数及びその内容（表2）について、最も多かったものがi（7ページ）であり、次いでj（2ページ）など、いずれも子育てに関する発行物であった。「○×」で示してあるのは、母乳の与え方や保存方法、寝かしつけ方、子のねむりやすい環境などであった。いずれも1ページであったe・f・gは、罹患後や治療後の飲酒・喫煙・食事について、dは相談を受けた際の伝達のポイントについて「○×」での説明があった。

5. 考察

本研究の結果、1) 11件が該当し、「性」や健康に関するものが多く、いずれも知的障害者のウェルビーイングの実現に向けて作成されていた。2) 比較的多く「○×」で説明されているものは子育てに関する発行物であった。これらで示された「○×」は子の生命や健康に関わるスキルの説明に用いられており、いわば科学的な正誤を伝えるものとして機能していた。門下・羽山（2023）の結果では性行動の規範を示す際に用いられており、同じ「○×」でも異なる機能をもつといえる。しかし、そのちがいを理解しながら読み進めるのは、障害の有無にかかわらず容易ではないだろう。さらに、「わかりやすい版」は情報を取捨選択して作成される傾向にあるため、「○×」の背景にある制作者の意図は前面に出づらいため可能性がある。そのため、「わかりやすい版」はただ当事者に渡されるだけではなく、より多様な情報に触れ、そこから様々な選択ができるよう、支援者らと対話しながら「共に学ぶ」「共に考える」ことが必須と考えられる。

また、そもそも知的障害者がこれらの資料にたどり着けるのかについても課題が残る。e～hは病院などで紙媒体として配布されているが、気軽に入手できるとはいいがたく、そのほかにもウェブ版にたどりつくにはURL等を知っているか、検索条件を工夫する必要がある。国内において、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が2022年5月に施行され、基本理念の一つに「障害者でない者と同内容の情報を同一時点において取得できるようにする」ことが掲げられた。今後は発行物の内容検討のみならず、知的障害者にとって効果的か、意図する情報が届くものになっているか、その活用についても焦点を当てることを研究課題としたい。

<引用文献>

- 羽山慎亮（2017）「政府刊行物の「わかりやすい版」の言語的特徴—知的障害者が制度を理解するという観点による考察—」『社会言語科学』20(1), 146-160.
- 門下祐子・羽山慎亮（2023）「知的障害者における「性」に関する学びのあり方—わかりやすい発行物の日韓比較を通して—」2023年第41回韓国社会福祉学会 2023社会福祉共同学会大会 発表資料.
- 打浪文子・羽山慎亮（2022）「医療情報の「わかりやすい版」と知的障害者の意思決定—がん情報の「わかりやすい版」試作に伴うプロセスの検討から—」日本社会福祉学会 第70回秋季大会 ポスター発表資料.